

ローズグラスの安定多収栽培法確立試験 播種期と刈り取り時期および刈株の高ちについて

川口新二・園田静夫※・水島 隆
(熊本県畜産試験場・※熊本県農政部畜産課)

KAWAGUCHI, S. SONODA, S. and MIZUSHIMA, T. IZUS
Studies on the Establishment of Constantly High-yielding Practices
in Cultivation of Rhodesgrass.
Influences of Seeding Period, Cutting Time and Cutting Height on
Growth and Yield.

ローズグラスは夏季の重要な牧草として、急速に普及しているが、栽培法により収量差が大きいようである。

本試験では、播種適期と刈り取りの時期、および適当な刈り株の高さの面から安定多収栽培法について検討した。

I 試験方法

- (1) 供試品種 ガンソンズ
- (2) 播種量と播種方法 0.15kg/a 散播
- (3) 試験規模と構成 1区9m², 3反復, 乱塊法
- (4) 処 理 第1表参照
- (5) 施肥量 第2表参照

第1表 処 理

播 種 時 期	4月5日, 4月26日, 5月17日, 6月7日	A 草丈約 60cm
刈り取り時期	A 若刈り, B 中間刈り, C 遅刈り	B 草丈約 85cm
刈り株の高さ	a 地上5cm, b 地上10cm, c 地上15cm	C 草丈約 110cm

第2表 施 肥 量 (kg/a)

成分	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	炭カル	備 考
4月5日	3.0	1.3	3.0	10	N, P ₂ O ₅ は栽培予定日数に比例した施肥量とした。
4月26日	2.7	1.3	2.7	10	
5月17日	2.4	1.3	2.4	10	
6月7日	2.1	1.3	2.1	10	

II 結果および考察

第3表は各処理区の合計収量を示したものである。播種期については4月下旬が最も多く、播種期が遅れるにしたがって減収する傾向がみられた。

刈り取りの時期については、中間刈り～遅刈りが

第3表 収量調査(風乾収量 kg/a)

刈り取り時期 播種時期	A			B			C			平均
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	
4月5日	112	110	110	141	138	116	152	143	137	129
4月26日	120	197	97	132	157	147	138	141	147	131
5月17日	123	113	89	123	126	111	127	134	129	120
6月7日	95	93	77	113	108	104	195	119	102	101
平 均	113	105	93	127	132	120	128	134	129	

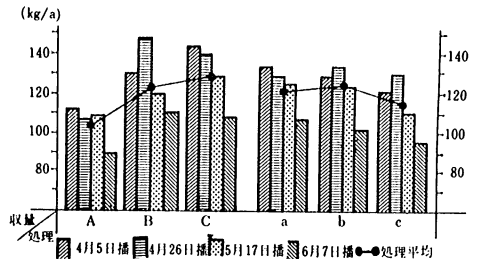
良く、若刈りではほとんど多収を望めない状況であった。遅刈りの場合は、倒伏、ムレ、葉グサレなどの障害が発生しやすいので注意を要する。

刈り株の高さはおおむね10cmが良かった。

第1図は収量におよぼす刈り取り処理の影響を播種期別に比較したものである。刈り取りの時期は全般的に中間刈り～遅刈りが良いが、中間刈りでの4月26日播が最も多かった。

刈り株の高さについては、5～10cmで刈り取った区が多収を示したが、4月26日播の場合は15cm刈りの場合でも、ほとんど収量に影響しなかった。

日生産量は遅まきの場合に多くなる傾向があり、刈り取りの時期は中間刈り～遅刈りが良く、刈り株の高さは若刈りの場合に5cmが良く、中間刈り～遅刈りの場合は10cmが良い傾向にみられた。



III 要 約

播種時期は4月下旬が適当である。

刈り取り時期は中間刈り～遅刈りが良いという結果であったが、遅刈りでは倒伏、ムレなどが発生しやすく、また、家畜に給与する場合は、嗜好性が著しく劣るので中間刈りとするのが適当である。

刈り株の高さは播種時期、刈り取りの時期などで若干異なるが、全般的にみれば10cmが望ましい。